

学校運営協議会だより

文責 CSコーディネーター中村

今年度も残り少なくなりました。そこで学校運営協議会だよりNO.18では、本年度活動の様子をお伝えしたいと思います。

1 学校運営協議会全体会を年3回実施、学校支援ボランティアを派遣しました。

回	日	時	議 題
第1回	5月22日(水曜日)	18:30~20:30	目指す子どもの姿 活動計画
第2回	10月16日(水曜日)	18:30~20:30	学校関係者評価 今後の活動
第3回	2月12日(木曜日)	18:30~20:30	学校関係者評価 成果と課題

運営協議会委員各位の協力により、予定通り年3回の全体会を実施することができました。また、最初の熟議で、各学校が要望する人材を派遣する取組を行うことを決め、各委員さんの活発な取組により、中学校技術の授業に学校支援ボランティアを派遣することができました。

学校運営協議会全体会の様子



第1回運営協議会5月22日
熟議で学校が求める人材派遣を行うこと確認

社会福祉協議会「男性の会」



中学技術授業に8回派遣

スライドは、第1回目全体会熟議の様子です。本年度の活動を協議した結果、学校が希望する人材派遣を行うこととしました。(小・中学校から要望のあった人材を各委員さんが探す活動を進めました。)本年度は、中学校から要請のあった技術の授業の学校支援ボランティアとして社会福祉協議会の「男性の会」の方々を派遣することができました。

2 人材バンクの設置 (学校応援ボランティアの募集)に取り組みました。



学校の教育(体験活動、実技指導、体育の補助、職場体験、登下校の見守り部活動・クラブ活動の補助)などの活動の充実を図るため、これらの活動を応援する人材バンクの作成を行いました。

町回覧版にて「募集案内」を周知させていただき、希望いただいた方には、人材バンクに1年間登録させていただいています。各学校より希望があった場合、登録者に学校へのボランティア派遣をご依頼しています。

3 広報活動を継続します。



学校運営協議会だよりを月2回発行しています。これまで、京極町が目指す教育、各学校の運営方針幼保小の連携、GIGAスクール構想、学校における働き方改革や部活動の地域移行、学校関係者評価などについて紹介させていただきました。学校運営協議会だよりは回覧版の他、町HPにて掲載させていただいています。



4 総合的な学習の時間への支援（職場訪問・体験可能事業所リスト提供）継続

京極町教育委員会は、町内小中学校教育活動の充実を図るため、総合的な学習の時間に実施している職場訪問・職場体験への支援を行っています。支援内容は、教育委員会による職場訪問・体験可能事業所リスト作成と学校への提供でしたが、本年度よりCSコーディネーターが教育委員会に配置されたことから、事業所リスト作成及び学校へのリストの提供は、京極町学校運営協議会〈事務局〉で担うこととなりました。

総合的な学習の時間（中学校）支援

CS事務局による事業所訪問
今年もお願いできますか？

職場訪問・体験可能事業所リスト作成

3年生の職場体験




希望先で職場体験・訪問実施

本年度も各事業所のご理解もと職場訪問・体験可能事業所リストの作成を行うことができました。リスト作成にご理解・協力いただきました各事業者様に厚くお礼申し上げます。中学校職場訪問・体験学習は下記の通り無事終了しております。

	学年	R6実施日	実施場所
職場体験	3	10月2日3日	町内10事業所
職場訪問	2	11月13日	町内10事業所

5 不登校対策 今後も関係機関との連携を大切にします。

今後学校運営協議会で期待される活動

不登校の対応

全国で不登校小・中学生は約35万人

不登校の子に必要な
・十分な休養
・学びの継続

理由わからない

学校の対応
・個別登校できる環境
・保護者との連携
・関係機関との連携

運営協議会との連携

文部科学省調査の調査によると、道内の小中学校不登校児童生徒数は前年度比16.6%増14,361人でした。

京極町不登校連絡協議会

写真は、令和6年4月26日(金)に行われた、不登校対策連絡協議会の様子です。

協議会には、各学校の校長(教頭)、住民福祉課係長、健康推進課保健師・社会福祉士、社会福祉協議会地域福祉課長、教育委員会学務課長、指導主事、CSコーディネーターなどにより、情報交流を行い、また、不登校未然防止、不登校児童生徒への対応を協議しました。



6 幼保小連携 今後も取組を広げていきます。



5月13日(月)小学校1年生体育(小林先生・本田先生)の授業を、保育園2名の先生、委員会より2名参観させていただきました。その後、担任の小林先生から小学校入学後の児童の様子をお話いただきました。

こうした幼保小連携の取組は、小学校就学前教育の接続の視点から情報交換することにより、小1プロブレムなどの問題行動の解消や子どもの学びの連続性について共通認識をもつことが期待されます。

7 その他 学校からの支援要請(追加要請)に対応できました。

10月4日<金>中学校家庭科の授業に、応援ボランティアの方を3名派遣することができました。ボランティアをご紹介いただいた委員さんにご支援いただいたボランティアの皆様に御礼申し上げます。

